

ちょっと深掘り!③

絵馬なのに牛!?

絵馬の画題は必ずしも「馬」であるとは限りません。また、絵馬の扱い方も「社寺へ奉納する」ことだけにとどまりません。ここでは「牛」が描かれた2点の絵馬を紹介します。



29 採集地:山形県鶴岡市
寸法(mm):縦85×横142×厚さ7

牛と寺社との深いかわり

山形県鶴岡市羽黒町(旧東田川郡羽黒町)に所在する出羽三山神社の絵馬には、「神牛」と称される牛が描かれています。出羽三山は月山・羽黒山・湯殿山の総称で、古くより山岳信仰の霊場として開かれ、広域から多くの参拝者を集めてきました。ここではその三山のひとつである湯殿山の開山が丑年であったことに由来し、牛を神聖なシンボルとしています。

また、江戸で大火が起こった際に、出羽三山の「神牛」が現れて火難を防ぎ、庄内藩江戸屋敷を延焼から守ったという伝説があり、庄内地方を中心に牛を火防の神とする民間伝承も存在します。



左ページの絵馬は
こんなセット

絵馬のおみやげ

板材に金属板を張り付けた立派な造りをしていることや、丁寧に包装されて由緒書きとともに箱に納められていることなどから、参拝者にもうけての土産品として用いられたものとみられます。「お土産として持ち帰る」という絵馬もあるんですね。

牛が描かれたそのワケは??

宮城県仙台市青葉区大倉(旧宮城町大倉)に所在する、定義如来じょうぎにょらいの名称で有名な極楽山西方寺の絵馬にも牛が描かれています。

しかし、西方寺には出羽三山のような牛にまつわる由緒や信仰などは確認できません。

なぜ絵馬に牛が? 答えは絵馬に記された年号からわかります!

絵馬の表面には「昭和四十八年」という記載があり、この年は丑年にあたります。1年間の幸運を願った縁起物として牛が描かれたのでしょう。



30 採集地:宮城県仙台市
寸法(mm):縦50×横70
×厚さ6